

2012 年度報告書（研究員）

氏 名	藤坂恭子
職 位	グローバル COE 研究員（短時間）
<p>研究概要</p> <p>本年度は前期と後期、それぞれ新しいテーマの研究を開始した。前半期は、米国の中流階級女性向け雑誌「レディース・ホーム・ジャーナル」を閲覧し、同誌が唱える中流階級の生活と意識を考察する研究を開始した。7月17日、人間・環境学研究科、人間形成論演習（小山先生）ゼミで「レディース・ホーム・ジャーナル購読者の家計費補助戦略、1915-1925：ガールズ・クラブに着目して」として発表した。この考察が明らかにしたことは、性別役割分業規範により、妻の就業を促していなかった同誌も、経済的必要性のある女性に対して内職を斡旋していたというものであった。</p> <p>後半期は、戦前期のロサンゼルス日本人移民の児童保護施設、南加小児園についての研究を開始した。初期段階の研究として、日本語新聞、パンフレット、先行研究などを閲覧した。12月22日、日本人の国際移動研究会において「戦前期南加小児園と羅府日本人社会：『羅府新報』の記事に着目して」というタイトルで発表した。本施設は、一般的に日本人のために、日本人の寄付によって運営されていたと言われているが、実際にはカリフォルニア州の監督下にあり、郡、州、アメリカの慈善団体からの補助金や寄付を受けることにより、ようやく運営が軌道に乗るようになったことが明らかになった。今後さらに閲覧史料を増やし、本施設の越境的性格や、日本人移民社会の福祉施設としての役割を明らかにしていきたい。</p> <p>主な活動記録</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ GCOE 出版プロジェクト、『『身体化』される親密圏・公共圏——医療、感情労働、セクシュアリティ』の研究会にオブザーバーとして参加。(4/26,6/1,9/6,10/26,12/28,1/12)</li> <li>・ 比較家族史学会研究大会、「アジアの家族と親密性——アジア家族研究の共通基盤形成」(6/16-17)参加。芝蘭会館稲盛ホール。</li> <li>・ GCOE 次世代ワーク・ショップ(11/6)、国際会議(11/8-9)に参加。稲盛財団記念会館。</li> </ul> <p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「戦前期南加小児園と羅府日本人社会：『羅府新報』の記事に着目して」、日本人の国際移動研究会、2012年12月22日、キャンパスプラザ京都。</li> </ul>	